

**CASBEE-建築(新築)2016年版**  
 一般社団法人 日本血液製剤機構 JBKプロジェクト

■使用評価マニュアル CASBEE-建築(新築)2016年版  
 ■評価ソフト: CASBEE-BD\_NC\_2016(v4.0)

スコアシート 実施設計段階

配慮項目	環境配慮設計の概要記入欄	評価点		重み係数		全体
		評価点	重み係数	評価点	重み係数	
<b>Q 建築物の環境品質</b>						<b>2.9</b>
<b>Q1 室内環境</b>						
1 音環境		-	-	-	-	-
1.1 室内騒音レベル		-	-	-	-	-
1.2 遮音		-	-	-	-	-
1 開口部遮音性能		-	-	-	-	-
2 界壁遮音性能		-	-	-	-	-
3 界床遮音性能(軽衝撃源)		-	-	-	-	-
4 界床遮音性能(重衝撃源)		-	-	-	-	-
1.3 吸音		-	-	-	-	-
2 温熱環境		-	-	-	-	-
2.1 室温制御		-	-	-	-	-
1 室温		-	-	-	-	-
2 外皮性能		-	-	-	-	-
3 ゾーン別制御性		-	-	-	-	-
2.2 湿度制御		-	-	-	-	-
2.3 空調方式		-	-	-	-	-
3 光・視環境		-	-	-	-	-
3.1 昼光利用		-	-	-	-	-
1 昼光率		-	-	-	-	-
2 方位別開口		-	-	-	-	-
3 昼光利用設備		-	-	-	-	-
3.2 グレア対策		-	-	-	-	-
1 昼光制御		-	-	-	-	-
3.3 照度		-	-	-	-	-
3.4 照明制御		-	-	-	-	-
4 空気質環境		-	-	-	-	-
4.1 発生源対策		-	-	-	-	-
1 化学汚染物質		-	-	-	-	-
4.2 換気		-	-	-	-	-
1 換気量		-	-	-	-	-
2 自然換気性能		-	-	-	-	-
3 取り入れ外気への配慮		-	-	-	-	-
4.3 運用管理		-	-	-	-	-
1 CO <sub>2</sub> の監視		-	-	-	-	-
2 喫煙の制御		-	-	-	-	-
<b>Q2 サービス性能</b>			<b>0.43</b>			<b>3.3</b>
1 機能性		-	-	-	-	-
1.1 機能性・使いやすさ		-	-	-	-	-
1 広さ・収納性		-	-	-	-	-
2 高度情報通信設備対応		-	-	-	-	-
3 バリアフリー計画		-	-	-	-	-
1.2 心理性・快適性		-	-	-	-	-
1 広さ感・景観		-	-	-	-	-
2 リフレッシュスペース		-	-	-	-	-
3 内装計画		-	-	-	-	-
1.3 維持管理		-	-	-	-	-
1 維持管理に配慮した設計		-	-	-	-	-
2 維持管理用機能の確保		-	-	-	-	-
2 耐用性・信頼性		<b>3.2</b>	0.50	-	-	<b>3.2</b>
2.1 耐震・免震・制震・制振		<b>3.0</b>	0.50	-	-	
1 耐震性(建物のこわれにくさ)		3.0	0.80	-	-	
2 免震・制震・制振性能		3.0	0.20	-	-	
2.2 部品・部材の耐用年数		<b>4.1</b>	0.30	-	-	
1 躯体材料の耐用年数	金属板:40年	3.0	0.20	-	-	
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔	床:ビニル床シート(20年)壁:ボード(20年)天井:ボード(30年)	5.0	0.20	-	-	
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔	屋外露出ダクトにステンレスダクトを採用	4.0	0.10	-	-	
4 空調換気ダクトの更新必要間隔	給水(VLP):B、給湯(SUS):C、排水(VP):B、Eは不使用	5.0	0.20	-	-	
5 空調・給排水配管の更新必要間隔		3.0	0.20	-	-	
6 主要設備機器の更新必要間隔		<b>2.8</b>	0.20	-	-	
2.4 信頼性		3.0	0.20	-	-	
1 空調・換気設備		3.0	0.20	-	-	
2 給排水・衛生設備		3.0	0.20	-	-	
3 電気設備		3.0	0.20	-	-	
4 機械・配管支持方法		3.0	0.20	-	-	
5 通信・情報設備		2.0	0.20	-	-	

3	対応性・更新性		3.4	0.50		-	3.4
	3.1 空間のゆとり		4.6	0.30		-	
	1 階高のゆとり	3.9m以上	5.0	0.60		-	
	2 空間の形状・自由さ	壁長さ比率0.1以上0.3未満	4.0	0.40		-	
	3.2 荷重のゆとり		3.0	0.30		-	
	3.3 設備の更新性		3.0	0.40		-	
	1 空調配管の更新性		3.0	0.20		-	
	2 給排水管の更新性		3.0	0.20		-	
	3 電気配線の更新性		3.0	0.10		-	
	4 通信配線の更新性		3.0	0.10		-	
	5 設備機器の更新性		3.0	0.20		-	
	6 バックアップスペースの確保		3.0	0.20		-	
Q3	室外環境(敷地内)		-	0.57		-	2.5
1	生物環境の保全と創出		2.0	0.30		-	2.0
2	まちなみ・景観への配慮		3.0	0.40		-	3.0
3	地域性・アメニティへの配慮		2.5	0.30		-	2.5
	3.1 地域性への配慮、快適性の向上		2.0	0.50		-	
	3.2 敷地内温熱環境の向上		3.0	0.50		-	
LR	建築物の環境負荷低減性						2.7
LR1	エネルギー		-	0.40		-	2.1
1	建物外皮の熱負荷抑制		-	-		-	-
2	自然エネルギー利用		3.0	0.13		-	3.0
3	設備システムの高効率化		1.6	0.63		-	1.6
4	効率的運用		3.0	0.25		-	3.0
	集合住宅以外の評価		3.0	1.00		-	
	4.1 モニタリング		3.0	0.50		-	
	4.2 運用管理体制		3.0	0.50		-	
	集合住宅の評価					-	
	4.1 モニタリング					-	
	4.2 運用管理体制					-	
LR2	資源・マテリアル		-	0.30		-	3.3
1	水資源保護		3.4	0.20		-	3.4
	1.1 節水	自動水栓、節水型便器を採用	4.0	0.40		-	
	1.2 雨水利用・雑排水等の利用		3.0	0.60		-	
	1 雨水利用システム導入の有無		3.0	0.70		-	
	2 雑排水等利用システム導入の有無		3.0	0.30		-	
2	非再生性資源の使用量削減		3.3	0.60		-	3.3
	2.1 材料使用量の削減		2.0	0.11		-	
	2.2 既存建築躯体等の継続使用		3.0	0.22		-	
	2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用		3.0	0.22		-	
	2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用		3.0	0.22		-	
	2.5 持続可能な森林から産出された木材		-	-		-	
	2.6 部材の再利用可能性向上への取組み	躯体と仕上材が容易に分別可能	5.0	0.22		-	
3	汚染物質含有材料の使用回避		3.3	0.20		-	3.3
	3.1 有害物質を含まない材料の使用		3.0	0.30		-	
	3.2 フロン・ハロンの回避		3.5	0.70		-	
	1 消火剤		-	-		-	
	2 発泡剤(断熱材等)	ODP=0.01未満、GWP=50未満の発泡剤を使用	4.0	0.50		-	
	3 冷媒		3.0	0.50		-	
LR3	敷地外環境		-	0.30		-	2.9
1	地球温暖化への配慮		2.8	0.33		-	2.8
2	地域環境への配慮		2.9	0.33		-	2.9
	2.1 大気汚染防止	電気温水器を採用	5.0	0.25		-	
	2.2 温熱環境悪化の改善		2.0	0.50		-	
	2.3 地域インフラへの負荷抑制		2.7	0.25		-	
	1 雨水排水負荷低減		3.0	0.25		-	
	2 汚水処理負荷抑制		3.0	0.25		-	
	3 交通負荷抑制		3.0	0.25		-	
	4 廃棄物処理負荷抑制		2.0	0.25		-	
3	周辺環境への配慮		3.0	0.33		-	3.0
	3.1 騒音・振動・悪臭の防止		3.0	0.40		-	
	1 騒音		3.0	1.00		-	
	2 振動		-	-		-	
	3 悪臭		-	-		-	
	3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制		3.0	0.40		-	
	1 風害の抑制		3.0	0.70		-	
	2 砂塵の抑制					-	
	3 日照障害の抑制		3.0	0.30		-	
	3.3 光害の抑制		3.0	0.20		-	
	1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策		3.0	0.70		-	
	2 屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策		3.0	0.30		-	

評価する取組み	合計	合計2	No.1	No.2	No.3	No.4	No.5	No.6	No.7	No.8	No.9	No.10	No.11	No.12	No.13
<b>Q2 サービス性能</b>															
1.2.3 内装計画	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
1.3.1 維持管理に配慮した設計	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
1.3.2 維持管理用機能の確保	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.4.1 空調・換気設備	1.0	-	-	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.4.2 給排水・衛生設備	2.0	2.0	○	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.4.3 電気設備	2.0	1.0	○	-	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.4.5 通信・情報設備	1.0	-	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
<b>Q3 室外環境(敷地内)</b>															
1 生物資源の保全と創出	4.0	-	-	2.0	-	1.0	-	1.0	-	-	-	-	-	-	-
2 まちなみ・景観への配慮	3.0	-	2.0	1.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
3.1 地域性への配慮、快適性の向上	1.0	-	-	-	-	-	1.0	-	-	-	-	-	-	-	-
3.2 敷地内温熱環境の向上	7.0	-	2.0	-	1.0	-	-	-	2.0	2.0	-	-	-	-	-
<b>LR1 エネルギー</b>															
2 自然エネルギー利用	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
<b>LR2 資源・マテリアル</b>															
1.2.2 雑排水等再利用システム導入の有無	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.1 材料使用量の削減	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み	2.0	-	○	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
3.1 有害物質を含まない材料の使用	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
<b>LR3 敷地外環境</b>															
2.2 温熱環境悪化の改善	4.0	-	1.0	-	-	2.0	-	-	-	1.0	-	-	-	-	-
2.3.3 交通負荷抑制	2.0	-	-	1.0	1.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.3.4 廃棄物処理負荷抑制	2.0	-	1.0	1.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
3.2.2 砂塵の抑制	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
3.3.1 屋外照明及び室内照明のうち外に漏れる光への対策	2.0	-	2.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
<b>主な指標</b>															
<b>Q1 室内環境</b>															
2.1.3 外皮性能															
窓システムSG - 窓の日射熱取得率(η) -															
U値(W/m2K) 窓システム - 屋根 - 外壁 - 床 -															
住戸部分 窓システムU値 - 外皮UA値 - ηAC - ηAH -															
3.1.1 昼光率 0.0%															
4.2.2 自然換気性能 自然換気有効開口面積率 0.0%															
<b>Q2 サービス性能</b>															
1.1.1 広さ・収納性 執務スペース .0㎡/人 病床 .0㎡/床 シングル .0㎡ ツイン .0㎡															
1.1.2 高度情報通信設備対応 コンセント容量 30.0 VA/㎡															
1.2.1 広さ感・景観 天井高 0 m															
1.2.2 リフレッシュスペース リフレッシュスペース 0.5% レストスペース 2.0%															
2.2.1 躯体材料の耐用年数 想定耐用年数 0 年															
2.2.2 外壁仕上げ材の補修必要間隔 想定必要間隔 40 年															
2.2.3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔 想定必要間隔 20 年															
2.2.6 主要設備機器の更新必要間隔 想定必要間隔 0 年															
3.1.1 階高のゆとり 階高 3.5 m															
3.1.2 空間の形状・自由さ 畳高さ比率 13.0%															
3.2 荷重のゆとり 床荷重 2800 N/m2															
<b>Q3 室外環境(敷地内)</b>															
1 生物資源の保全と創出 外構緑化指数 22% 建物緑化指数 0%															
3.2 敷地内温熱環境の向上 空地率 65% 水平投影面積率 7% 地表面対策面積率 18% 舗装面積率 58%															
<b>LR1 エネルギー</b>															
1 建物外皮の熱負荷抑制 BPI/BPIm - 断熱等性能等級 0 相当															
2 自然エネルギー利用 自然エネルギー直接利用量 0 MJ/年㎡ 採光を満たす教室数 0.0% 採光を満たす住戸数 0.0%															
通風を満たす教室数 0.0% 通風を満たす住戸数 0.0%															
3 設備システムの高効率化 BPI/BPIm 非住宅 1.04 住宅 - 太陽光 .0kW 太陽熱等 .0kW 蓄電池 .0kW															
<b>LR2 資源・マテリアル</b>															
1.2.1 雨水利用システム導入の有無 雨水利用率 0.0%															
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用 特定調達品目 断熱材 エコマーク商品 - 自治体指定の特定品目等 -															
2.5 持続可能な森林から産出された木材 使用比率 0.0%															
3.2.1 消火剤 オゾン層破壊係数(ODP) 地球温暖化係数(GWP)															
3.2.2 発泡剤(断熱材等) オゾン層破壊係数(ODP) 0 地球温暖化係数(GWP) 3															
3.2.3 冷媒 オゾン層破壊係数(ODP) 地球温暖化係数(GWP)															
<b>LR3 敷地外環境</b>															
2.2 温熱環境悪化の改善 見付面積比 #DIV/0! 隣棟間隔指標Rw -															
地表面対策面積率 30.0% 屋根面対策面積率 #DIV/0! 外壁面対策面積率 #DIV/0!															
見付面積Sb 30㎡ 卓越風向と直交する最大敷地幅Ws 30 m 基準高さHb 30 m															
緑地 360㎡ 水面 ㎡ 保水性対策面 ㎡ 高反射対策面 ㎡ 再帰性反射対策面 ㎡															